

「安全体験研修」のご案内

JR東日本グループ全体で取組む“安全”

鉄道の安全の仕組みを体験・体感して安全意識を鍛える！

鉄道運行の安全は、長年にわたり改善を重ねた様々な仕組みと、社員一人ひとりの絶えることのない取り組みに支えられています。本研修は、JR東日本総合研修センターが新入社員教育や新規乗務員養成等を行う中で伝えている「鉄道の安全」の全体像をご体験いただくことで、安全意識を向上させ、実業務の行動改善を図っていただくことを目的としています。

「座学」と「体験」を交互に行うカリキュラム構成とし、研修受講への集中度を高めるように工夫しております。この研修の中で、お伝えをする「安全」に対する考え方をもとに、自職場に戻ってからの行動に活かしていただければ幸いです。

1. 内容

鉄道の安全運行の仕組み

信号や踏切など、設備の実機を確認しながら、「仕組み」で支える安全を学びます。

安全を守る取り組み

鉄道の現場で行われている社員の「取り組み」や研修センターでの教育・訓練の内容を学びます。

2. 手法

座学

講義とグループディスカッションで仕組みを理解し、考えていただきます。

実習体験

JR東日本社員に対して行っている教育・訓練を体験し、その効果を実感していただきます。

3. 受講効果

安全意識が向上

安全に対する知識を学ぶことで、自社、自職場の安全を感じとり、考える力が向上します。

安全の行動実践

一つひとつの取り組みの意味と効果を実感することで、自身と自職場の安全行動の実践につなげます。

…現場指導の参考にも…

(受講者の声)
講師陣から、「お客さまと社員の命を守りたい」という思いが伝わりました。情熱あふれる訓練指導、講義が大変印象に残りました。現場で自社社員を指導する参考にしたいと思います。



【研修の概要】

◆実施場所:

JR東日本総合研修センター (福島県白河市)

◆対象:

安全に関わる全ての皆様 ※1回あたり15名程度

◆日数:

1日間～3日間 ※ご要望に応じて調整いたします

◆担当講師:

JR東日本総合研修センター 講師陣

◆研修費用(税抜)

講師料 ¥260,000/日

(別途)

資料代¥2,000/人、教材費¥2,000/人、

実習機材使用料(カリキュラム内容により)

食費・宿泊費 その他

◆お問い合わせ先:

(株)JR東日本パーソネルサービス コンサルティング事業部

【TEL】03-6304-5951 【FAX】03-6304-5958



内容	詳細
1. オリエンテーション	研修の全体像と、習得目標をお伝えし、学ぶ姿勢を整えます。
2. 鉄道の基礎知識	<p>研修で利用する鉄道設備に関する基礎知識をお伝えします。</p> <p>他の交通機関とは異なる鉄道安全の特性と仕組みをご理解いただきます。</p>
3. 基本動作訓練	<p>JR東日本が実施している正しい基本動作を学びます。</p> <p>JR東日本社員と同じ訓練を行い、なぜその手順になっているのか、その効果を体感します。 (訓練内容:集合・人数確認・人員報告・方向転換・指差喚呼・敬礼等)</p> 
4. 運転信号実習室	<p>運転信号実習室を利用して、仕組みで守る安全を学びます。</p> <p>鉄道の信号は、自動車交通の信号とは種類も意味も異なります。実習室内にある実機を確認しながら、鉄道安全の基礎である「閉そく」(=同じ区間内に、複数の列車が入り込まないようにすることで衝突事故を防ぐ)という仕組みを学びます。</p> 
5. 運転士シミュレータ体験	<p>乗務員養成で実際に使われているシミュレータを体験します。</p> <p>運転士が乗務中に行っている多様な確認事項、繰り返す指差喚呼が支える運行安全を体感していただきます。</p>
6. 過去の鉄道事故から学ぶ	<p>事故の歴史展示館で、真に過去から学ぶということを体感します。</p> <p>さまざまな鉄道事故の原因と結果等の事実を把握し、事故の怖さ、被害、鉄道というインフラ産業が担っている社会的責任の大きさ、JR東日本が事故から学び、安全を進化させている歴史をお伝えします。</p> 
7. 列車防護訓練	<p>列車防護(事故現場に他の列車が進来して2つ目の事故が起きるのを防ぐ措置)を行い、併発事故を防止のための訓練を行います。</p> <p>異常時という緊張状態の中で手順どおりに正しく行動するために、どのように訓練をしているか体験していただくと共に、その重要性を感じていただきます。</p> 
8. ホームと線路内の安全設備	<p>ホームからの転落事故を想定した救出訓練を行います。</p> <p>ホームや踏切での事故を防ぐために列車を非常停止する装置を実際に操作し、お客さまの命を守るために、駅社員等が現場で受けている教育・訓練を体感します。</p> 
9. 保護具体験	<p>保護具(安全帽・安全帯)の効果実証体験を行います。</p> <p>保護具は万能ではなく、正しく着用し、安全な行動をとったときに初めてその効果を発揮します。保護具や制服は全て正しく着用し、安全行動も怠ってはいけないことを学びます。</p> 
10. ヒューマンエラー・労災防止について	<p>学術的な話ではなく、鉄道の事例に基づいたヒューマンエラー・労災防止の傾向と対策をお伝えします。</p> <p>「人間のエラーを全て防ぐことはできないが、コントロール(管理)はできる」という考え方を知っていただくと共に、現場での対策検討の一助にさせていただきます。</p>
11. 学んだことを現場でどう活かすか	<p>研修で学んだことを自社の現場で活かすための課題を整理し、個人で考え、グループで共有をしていただきます。</p> <p>その上で、他のメンバーの意見を聞きながら、新たな考えなどに気づき、より、自身の具体的な行動について検討していただきます。</p>